

【市政懇談会 質疑応答】 橋南西会館（平成 25 年 8 月 7 日（水） 18:00）

【参加者 A】

高齢者のバス料金について、根室市では 70 歳以上は無料となっています。釧路市でもバス会社の制度で、62 歳になったら免許を返上した場合、低料金のグリーン定期券が利用できます。ある住民の方から、根室で 70 歳以上のバス代の無料化ができて、釧路ではできないものかとの意見がありました。連合町内会や町内の会合でお会いした市議会議員の方に聞きましたが難しいという回答でした。住民を得心させるような説明をお願いしたい。

【市長】

地域ごとにさまざまなケースがあると思いますが、自分の町で自由に使えるお金を何に使うかは皆さんの合意のもとで使われていると考えています。

釧路市の場合、皆さんからいただく税金は、市民税や法人税、固定資産税等で約 200 億円です。釧路市の予算は、この他、国からの地方交付税が約 250 億円、借り入れも含めると合計で約 900 億円規模です。この予算案を市議会に提案して議会の議決を得て事業を行っています。

住民サービスを充実させるために無料にするという考え方はどうなのかなと思っています。どのような事業でも実施すれば費用が掛かります。もちろん、今までお年を召した方々には、今日の基盤、社会の基礎をつくっていただいたということで、そこに感謝の気持ちを持ちながら敬老の日等で対応し進めていくことは日本の文化として大切だと思います。しかし、だからと言って、無料にするということではないと思います。

高齢者の方は約 6 万 5 千人いらっしゃいます。国の社会保障制度をみても 65 歳以上等いろいろありますが、高齢者の方でも一定程度の経費を負担していただきながら、取り組みを進めていくのが望ましいのではないかと考えています。

【参加者 A】

今のご説明で得心いただけると思います。

【参加者 B】

現状や釧路の弱み強みを認識しながら取り組みを進めていくという考えは理解できます。現実的にはいろいろと難しい部分もあるだろうし、ご苦労も多いと思う。資料にもある通り、市民協働の考えのもと、市民と一体となって取り組んでいく、ということに尽きると思います。政策プラン策定にあたっての職員の努力には敬意を表します。ただ日頃感じているのが職員に元気が無いことです。新たな改革を進めるためには思い切ったことをやることも必要な時があると思います。

釧路独自という話もありましたので、職員には思い切った発想の転換を求

めたい。市民協働ということで市民の生の声を受け止め、反映する具体的な取り組みを行っていただきたい。呼びかけも行ってほしい。

【市長】

これまでの財政縮小路線に対して、職員に何か萎縮しているようなところを感じました。そこで職員自ら、地域の課題を解決するために事業予算を獲得するような取り組みとして、私や副市長、予算を担当する部長を前に事業内容のプレゼンテーションを行い、内容の優れたものを予算化する職員提案事業（元気創造枠）を始めました。こうした取り組みを通じて、各職員のプレゼンテーションの能力の高さや現場での課題解決に向けての姿勢等を見ることができるようになりました。

庁舎窓口案内についても、若手職員が3つのグループを作って、市役所内のマップや配置について検討しそれぞれ改善提案しました。その中から採用して実施しているものもあります。また、今後、防災まちづくり拠点施設の建設が始まりますが、この施設のワンストップ窓口化に向けた議論にも若手職員が入っています。一市民としての視点を持って改善に取り組んでおり、こうした取り組みは市民の皆さんに見えるようにしていきたいと考えています。

生の声を受け止めるという点では、市政懇談会でもさまざまな意見を伺うのが目的であります。職員研修も含め、地域の方々との協議など、いろいろな場面作りを検討していきたいと考えています。

【参加者C】

港まつりで中心街に多くの人が見ているのを見て、昭和30年ごろの賑わいを思い出し嬉しくなりました。リバーサイドの整備が進んで、祭りの賑わいも昔と比べて奥行きが深くなったと思う。

コンパクトシティについては、中心市街地の活性化に向けてなお一層努力してほしい。

根室落石ではバードウォッチングツアーが行われています。地元の人もここで珍しい鳥が見られるのは分かっていたようですが、そのことを生かして地域外から人を呼び込むまでには至ってはいなかった。それを非常にパワーのある人が移住してバードウォッチングツアーをつくって、観光事業の一環として取り組んでいる。釧路市では長期滞在に取り組んでいるが長期滞在者には移住してもらって、釧路に新しい風を入れてもらいたい。

【市長】

洪水や氾濫等が起きる川が多い中、釧路川のように街中をゆったり流れる穏やかな川は、全国的にあまり見られません。最近では幣舞橋周辺を舞台に舟漕ぎ大会等が開催されるなど、釧路川のリバーサイドは素晴らしいと思っています。

釧路市の人口は18万2千人です。これまでの街づくりは、25万人を基本に行われてきましたので、人口が減ったからと言って、すぐに縮小できるかという難しい面があります。そのため、市では「コンパクトなまちづくりに関する考え方」をまとめました。これは歩いて行ける範囲を生活圏と考え、その範囲の中に、医療機関や買い物ができる商業施設、公的施設等を集約するようにしていこうとするものです。現在、新橋大通地区をモデル地区として選定し、地区内の商業施設の3階に子育てスペースを作り、地域の町内会にも協力いただきながら、取り組んでいるところです。

駅周辺整備については、平成19年に釧路駅の高架について検討する委員会が商工会議所も参加して立ち上がり、2つの案が提示されましたが、当時の財政状況ではいずれの案も選択できませんでした。しかしながら、東日本大震災後に、北海道が新しい津波シミュレーションを発表したことを踏まえ、新しい釧路市のハザードマップでは津波避難ビルを確保しようと考えています。原則、避難は徒歩ですが、避難路を確保する必要がある時に、線路をどうするか、駅をどうするかという検討が必要であると考えています。現在、財政健全化推進プランの集中取組期間でもありますので、平成27年までに駅についての市の見解をしっかりと出していきたいと考えています。

【参加者C】

できることであればこの地域の再開発も検討してほしい。

【市長】

この地域の歴史、文化を踏まえて進めていきたいと考えています。

【参加者D】

釧路川の耐震岸壁が完成したことで多くの客船が入港するようになりました。乗船客の多くは観光地に出かけたりしているようですが、北大通を訪れる人もいて店の売りに貢献していると聞いています。

私はくしろ橋南西ゆめこい倶楽部に参加しているので、客船が耐震岸壁に着いた時は、おもてなしの手伝いをしています。船によっては、西港に着いたりすることもあります。西港から中心街まで来るにはバスが必要となる。耐震岸壁がどの程度の大きさの船に対応できるか分からないが、出来れば耐震岸壁に着いてほしいと思っている。釧路港のおもてなしについては評判も良いようで、釧路にまた来たいという話も聞いています。

釧路駅からロータリーまでは釧路の中心になるわけですから、何とか活性化してほしい。

【市長】

耐震岸壁の水深は9mですが、クルーズ船も大型化しています。サンプリンセス号は7万トンでぎりぎりでしたが、来年寄港予定のダイヤモンドプリ

ンセス号は、11 万トンですので西港に着く予定です。街の近くに停泊したいのは船会社や乗船客、受け入れ側の要望ですが、ハードの整備と船の大型化のスピードに追い付いていない状況にあります。西港では最大水深 14mなので、多くの船が接岸できます。市でも、船会社にさまざまな対応をお願いし、釧路川の耐震岸壁に入港するよう努力していますところ。くしろ橋南西ゆめこい倶楽部や釧路港おもてなし倶楽部の歓迎はとても評価が高く、今後是非協力をお願いしたいと思っています。

中心市街地の活性化については、他都市のコンパクトシティの取り組み等も参考にしながら、皆さんの民意を集めて対応していくことが重要だと考えています。

【参加者 E】

釧路の強みの話がありました。釧路の自然、食べ物、いろいろな良さを売り込んでいく考えは理解できますが、気になるのが阿寒湖畔のカジノ構想です。皆が誇りを持ってまちづくりを行っていく中で、経済効果は良いとは思いますがイメージが悪いです。市の基本的な考えをお聞きしたい。

次に高齢者対策についてです。少子高齢化が進んでおり、地域でも親睦を深めるために努力していますが、孤独死・孤立死を防ぐ具体的なプランが見えません。特にこの地域は空き家や空き地が多い。函館では空き家の処分について条例化して取り組んでいるようです。お金が掛かる難しい面もあると思いますが、一歩進んだ対策をしてほしい。

【市長】

カジノと言うと、イコール博打と捉えがちですが、複合リゾート（IR）構想という中にカジノが含まれています。世界的に見ると、ラスベガスなど一大アミューズメントパークになっていますし、シドニーにもあります。また、ドイツには富裕層を対象とした自然豊かな温泉地のリゾートカジノがある等、普段私達がイメージするものと大きく違っているところもあります。

国ではIR法案を2年間かけてさまざまな規制を含めて構築する予定ですので、今後どのような形になるか見極めていきたいと思っています。

根室落石のバードウォッチングでは、イギリスの方が阿寒湖畔に10日間宿泊しながら根室を往復されたそうです。阿寒が気に入って滞在されたと聞いています。釧路の自然の価値は、十分理解していますので、ゆったりと自然を楽しみながら滞在できる複合リゾートを目指し、取り扱いが見えてきたら、情報共有をしながら検討したいと考えております。

少子高齢化への対応については、地域包括支援センター等と連携しながら取り組みを進めています。

また、空き家、空き地問題については、道内では室蘭市が初めて条例制定し、次に滝川市も制定しましたが、実際、適用されていないと聞いています。非常に適用が難しい状況であると思っています。

【都市整備部長】

空き家、空き地に関する条例は、全国的には 140 を超える自治体が制定していますが、行政代執行は 1 市のみであると把握しています。基本的には、防犯や美観の観点から条例がつくられているものと考えています。

【参加者 E】

これからますます増えてくると思うが、この状況をどうするか聞きたい。

【市長】

日本の法律では個人の財産権が重視されており難しい問題です。しかし、これだけ大きな全国的な問題になってきていますので、国としてもさまざまな動きが出てくると思っています。今後、国や北海道、他都市の状況を踏まえながら、検討していかなければならないと考えています。

【参加者 E】

地域で協力できることは協力しますので、取り組んでもらいたい。

【参加者 F】

どの町も「市民協働によるまちづくり」を掲げている。響きが良いので市民としては協力しなくてはいけない気持ちになる一方、行政の下請けのようにも感じている。行政も市民に協力しなくては市民協働にはならないと思う。

【市長】

職員には、自分の担当業務だけでなく、市全体に関心を持つべきだと言っています。市民からの相談についても、自分に関係あるかどうかではなく、市に相談してきているという意識を持つよう言っています。

【参加者 F】

入舟 4 丁目にキタガミハクヨウという大きな木があります。所有者は分かりませんが、これからもっと大きくなると思うので、処分等を検討してほしい。

【参加者 G】

入船 5 丁目の横断歩道付近の歩道が、車椅子も通れないほど草が生い茂っている。

東日本大震災の際に、入舟地区では床上・床下浸水等の津波被害がありましたので、入舟地区に釧路川のリバーサイド整備で造られた堤防と同規模の堤防を造ってほしい。堤防があれば、ある程度、避難する時間が確保されるので津波被害が防げると思っていますので将来に向けて計画してほしい。

また、耐震岸壁はきれいに整備されましたが、対岸にある入舟岸壁の環境

は良くありません。漁具等が岸壁に置き放しになっているし、ゴミも散乱している。10年前から市の担当課に要望していますが一向に良くなりません。我々は毎月清掃を行っている。

【市長】

今後、国でも津波シミュレーションを行うこととなっています。国と北海道が連動していない状況にありますが、どのように皆さんの安全を確保するか検討していきたいと思っています。

【参加者H】

本日は地区連合町内会の会長も参加していますので、今秋、要望事項を取りまとめて要望したいと思います。

【市長】

分かりました。その場でまた検討したいと思います。

本日はお疲れのところ、遅くまでありがとうございます。いろいろなご意見がありましたら、さまざまな場面で伝えていただき、私どももしっかりと議論しながら進めてまいりたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。